



内藤 とし子 議員

公共施設あり方計画
推進事業について

問 公共施設あり方計画が提案され、スケジュールも示されているが、高浜小学校整備の複合化に関連して、大山公民館を取り壊した後の利用は大丈夫なのか。

答 大山公民館については機能重視で取り組むため、利用者と話し合っており、どうするか決めていきます。

問 行政によるマネジメント計画に対して、なぜそのような状況に置かれているのか。どうしてこれらの施設が、統廃合の対象とならなければならないのか。施設には、別の使い道はないのか。施設がなくなってもコミュニティが存続するためには、どうしたらよいのかなど、住民によって熟慮されるべき事柄は多いものがあり、住民に周知しなければなりません。周知はどうするのか。

答 11月から地域で5カ所説明会を行い、出前講座も希望があれば行う考えです。

問 昨年の説明会のように、5カ所で146人の参加者では少なく問題である。昼夜行って、参加しやすい体制をとるべきと考えらるが。

答 夜だけの予定です。

問 平成28年に市民センターホールを解体する予定となっているが、代わりはどうするのか。

答 高浜小学校体育館等で、代わりは行っていた。利用者には不都合もあると考える。

問 刈谷豊田総合病院高浜分院を持つてくるということであるが、中央公民館跡地に建てる要因は。また、病院を豊田会に建ててもらって、20億円補助金を出すと、今のうちに赤字補てんも出すのか。

答 現在の場所では、形がいびつで建て直しが難しい。土地を探したが、市民センターは地理的にも現在と近いので最適となった。赤字補てんは、今後はしない。

問 豊田会に移譲したときも市民の声を聞くことをしなかったが、今回も聞く考えはないのか。考えはありません。

総務建設委員会

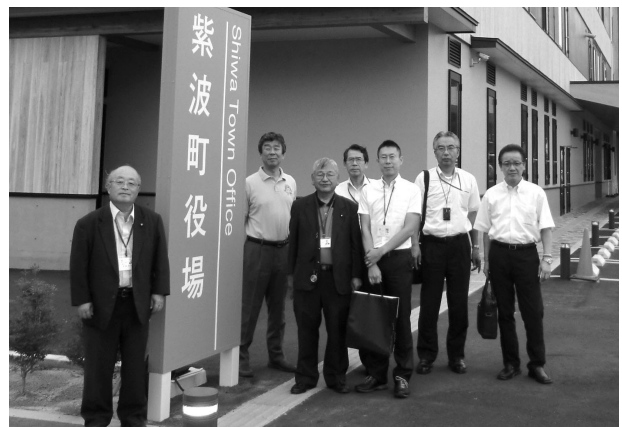
行政視察

日程 平成27年7月15日～17日

(若手県紫波町、宮城県仙台市)

●商業振興施策について(紫波町)

「オガール紫波プロジェクト」について視察をしました。その取り組みは、JR新駅の誘致と駅前開発、庁舎の老朽化による建て替え問題、図書館の新設要望等に対して、10年塩漬けとなっていた町有地を一体的に有効活用するというものでした。当時の町長と元UR職員が主導し、紫波町公民連携基本計画を策定。この計画の目的には、町民の資産である町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら、公共施設整備と民間施設とを、複合的に開発することがうたわれており、その公民連携により、公共施設整備や経済、都市開発を通じたまちづくりを効果的に進め、行政と民間の役割分担や情報交換をスムーズに行い、公の良い部分、民の良い部分をしっかりと活かしたまちづくりが推進されていました。



●災害施策について(仙台市)

仙台市の「地域版避難所運営マニュアル」の作成、運営」について視察をしました。仙台市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、甚大な被害を受け、被災後、対応に奔走した実際の経験から得られた教訓や市民アンケート等を基にまとめられたマニュアルについて、作成に至った背景から注意点に至るまで、貴重な説明を担当部署からしていただきました。「市民の総合力による防災」が今後さらに重要になるという観点から、地域の防災力を高めるために、マニュアルの作成や